

令和4年1月定例教育委員会会議録

日 時	令和4年1月21日（金） 午後1時30分～午後2時8分
場 所	秦野市役所教育庁舎3階大会議室
出席委員	教育長 佐藤 直樹 教育長職務代理者 牛田 洋史 委 員 飯田 文宏 委 員 片山 恵一 委 員 小泉 裕子
欠席委員	なし
委員以外 の出席者	教 育 部 長 正岡 義海 教育指導課長兼 文化スポーツ部長 宇佐美 高明 教育研究所長 丸野 研二 教育総務課長 守屋 紀子 生涯学習課長 水島 一葉 学校教育課長 久保田 貴 図 書 館 長 山本 英範 学校教育課担当課長 上條 秀香 教育総務課課長代理 吉田 浩成 教 職 員 課 長 古木 学
傍聴者	1名
会議次第	<p style="text-align: center;">1 月 定 例 教 育 委 員 会 会 議</p> <p style="text-align: right;">日 時 令和4年1月21日（金） 午後1時30分 場 所 秦野市役所教育庁舎3階大会議室</p> <p style="text-align: center;">次 第</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 開 会 2 会議録の承認 3 教育長報告及び提案 <ol style="list-style-type: none"> (1) 令和4年「教育長年頭あいさつ」について (2) 令和4年2月の開催行事等について (3) 臨時代理の報告について <ol style="list-style-type: none"> ア 報告第1号 令和4年度管理職候補者の推薦について (4) 第2回コミュニティ・スクール連絡協議会の開催結果について (5) 令和3年度「学校生活全般における体罰の実態把握に関する調査」の実施について (6) 子ども等に関する事案について (7) 令和3年度神奈川県社会教育委員連絡協議会地区研究会について (8) ミュージアム青空レクチャー「震生湖周辺を歩く」について (9) 企画展「母ちゃん、頑張る！ー西秦野町婦人学級と働く女性たちー」について (10) 令和3年度子ども読書活動推進事業講演会について

	4 協議事項 (1) 令和4年度秦野市一般会計（教育費）予算（案）について 5 その他 (1) 令和4年度教育委員会会議等日程（案）について 6 閉 会
会議資料	別紙のとおり

佐藤教育長

それでは、ただいまから1月定例教育委員会会議を開催させていただきます。お手元の会議次第に沿って進めさせていただきます。

まず、会議録の承認につきまして、御意見、御質問等ございましたらお願いいたします。いかがでしょうか。

—異議なし—

佐藤教育長

それでは、非公開関係につきましては、事務局のほうに会議終了後に申し出をいただきたいと思います。

それでは、会議録は承認したいと思います。

次に、非公開案件につきまして、3の教育長報告及び提案の(3)ア、報告第1号については、人事に関する案件のため、また、(6)の子ども等に関する事案については、個人情報が含まれるため、そして、4の協議事項(1)令和4年度秦野市一般会計（教育費）予算（案）については、意思形成過程にあるため、会議は非公開とさせていただきますが、よろしいでしょうか。

—異議なし—

佐藤教育長

よって、3の(3)及び(6)並びに4の(1)は、非公開とさせていただきます。

それでは、次第3、教育長報告及び提案についてをお願いいたします。

教育指導課長兼
教育研究所長

私からは、冒頭の資料No.1にございます教育長年頭あいさつについて御報告いたします。

1月11日の3学期の始業日に当たり、各園、各校の先生方に向け教育長より年頭のメッセージをいただいております。長期化しております新型コロナウイルス感染症への対応や、いまだ記憶に新しい東京オリンピック・パラリンピックを通じた1年の振り返りから、この困難の中で園、学校の現場の先生方の思いに触れ、「教育は人なり」を痛感されたことなど、私も含めまして全ての先生方に実感を持ってかみしめていただきたいと願っておるところです。

さらに、GIGAスクールや中学校給食などを含めました新た

な学びのスタイルの定着や学びの基盤プロジェクトの拡充などの動きをより加速させるためには、教育デジタルトランスフォーメーションによるスマートスクールの実現、この必要性についても言及していただいております。

1月11日に各校で印刷していただき、各先生方に配布しているところでございます。

私からは以上です。

それでは、資料No.2を御覧いただきたいと思います。私からは、令和4年2月の開催行事等についてお話をさせていただきます。

まず、2月1日火曜日から、長い期間になりますが、4月17日日曜日まで、はだの歴史博物館の企画展「母ちゃん、頑張る！—西秦野町婦人学級と働く女性たち—」を開催いたします。詳細については、この後、資料No.8で説明いたします。

次に、2月3日木曜日です。第2回教職経験4年次研修として、こちら教育庁舎におきまして、教職員28名を対象に、ICTを活用した授業実践の報告、そして効果的な活用について協議を行います。

続いて7日月曜日です。学校警察連絡協議会、それから小・中学校教諭と保護司会との協議会をクアーズテック秦野カルチャーホールで開催いたします。こちらは、秦野警察署の生活安全課と市のこども若者相談担当による講演を行うとともに、学校と保護司との情報共有を行います。

続きまして、8日火曜日、22日火曜日ですけれども、いつも行っていますブックスタート事業になります。今回も絵本の配布のみという形になります。

続いて、12日土曜日です。図書館の視聴覚室におきまして、今年度の子ども読書活動推進事業講演会を行います。テーマは「絵本は絵空事？～秦野での出逢いと『しらすどん』～」ということで、地域情報紙の記者でございました最勝寺朋子さんに講演をいただきます。詳細については、この後、資料No.9で説明いたします。

続いて、13日日曜日です。ミュージアム青空レクチャー「震生湖周辺を歩く」を開催する予定でございます。詳細は資料No.7で説明いたします。

めくっていただきまして、2ページ目に移ります。まず、14日月曜日です。令和3年度神奈川県社会教育委員連絡協議会地区研究会をクアーズテック秦野カルチャーホール、文化会館で、県内の市の社会教育委員を集めて開催する予定でございましたけれ

ども、新型コロナウイルスの感染拡大を受けまして書面開催という形にいたしました。内容につきましては資料No.6で説明いたします。

続きまして、15日火曜日です。秦野市幼・保連絡協議会を教育庁舎で開催いたします。今回は、現在、東海大学の非常勤講師でございます高木俊樹さんをお願いいたしまして、「本市における教育・保育の質の向上をめざして～園小中一貫教育において滑らかな接続を考える～」というテーマでお話をいただきます。

それから、16日水曜日ですが、2月の定例教育委員会会議を行いますので、出席をお願いいたします。

続きまして、19日土曜日です。今年度10回目のはだの生涯学習講座を本町公民館で開催いたします。10回目のテーマは、今日追加でカラーの資料をお配りしていますけれども、「心も体もスッカリ毎日を楽しく過ごす呼吸法と思考のクセの開放」ということで、ヨガインストラクターの村上佳苗氏を講師に招き行う予定でございます。

それから、21日月曜日は、定例記者会見です。

そして、翌日22日は、今年度第6回目の園長・校長会を開催する予定でございます。

そして、最後になりますけれども、2月24日木曜日から、1か月近くなります3月25日金曜日まで、令和4年秦野市議会第1回定例会会議が開催されます。この第1回定例会会議につきましては、市長の施政方針に始まりまして、予算を審議する議会という形になります。

以上が2月の行事予定となります。ただし、現在の新型コロナウイルスの感染拡大を受けまして、御存知のとおり、本日から2月13日まで、本市には、まん延防止等重点措置が適用されておりますので、今お話ししました行事につきましても、感染状況によっては、また変更になる場合もあるということでございます。

私からは以上でございます。

私からは、(4)(5)について御報告いたします。

(4)第2回コミュニティ・スクール連絡協議会の開催結果について、資料No.4を御覧ください。

資料の前段にもございますとおり、現在、本市では小学校7校、中学校4校、計11校が学校運営協議会を設置しておりまして、研究推進校としました協議会の設置に向け、新たに5校が準備を進めているところでございますが、今回の連絡協議会では、コミュニティ・スクールの制度及びより良い協働のあり方についての理解を深めるため、南小学校を会場としまして、厚木市教育委員

会社会教育課社会教育指導員であります中川洋太氏を講師にお招きいたしまして御講演いただきました。

今回は、生涯学習課長をはじめ、CSディレクター・コーディネーター、また学校運営協議会の委員の方にも御参加いただく中、コミュニティ・スクール制度の目的や意義、さらには学校運営協議会の場で学校教育目標や現在の学校運営上の困り感などを共有することで、子どもの育ちや学びを支えるためのより充実した取組を進めることができるということを、具体的な取組、実践をもとにお話をいただきました。

資料の裏面上段にスライドを一部抜粋させていただきました。コミュニティ・スクールを推進していくうえで欠かすことのできない3つの機能ということで、中川先生から、熟議、協働、マネジメント、それぞれについてのお話、さらには、その3つが密接に結びついていることなどを御教授いただいたところでございます。その他、参加していただいた方からの感想を一部掲載いたしましたので、御確認いただければと思います。

続きまして、(5) 令和3年度「学校生活全般における体罰の実態把握に関する調査」について、資料No.5を御覧ください。

昨年12月に県教育委員会より依頼がありましたので、その方針に従い実施いたします。例年と同様、質問紙及び回答用紙につきましては、県教育委員会の原案に基づいたものを使用いたします。調査の日程は資料のとおりでございます。1月28日、各校で質問紙、回答用紙を配布。2月3日に回答用紙の投函を締め切った後、該当事案につきましては、各校と連携して対応してまいります。

なお、結果につきましては、2月の教育委員会会議にて御報告いたします。

私からは以上です。

私からは、(7) から (9) について御報告申し上げます。

まず、資料No.6、神奈川県社会教育委員連絡協議会地区研究会についてを御覧ください。

県内各市町村の社会教育委員が一堂に会し、それぞれの地域での取組や社会教育の今日的な課題について研究、協議、情報交換をする地区研究会については、毎年、県内2つの自治体を会場として開催しております。令和3年度は、1月に横須賀市、2月に秦野市を会場として開催する予定でしたが、新型コロナウイルスの影響に鑑みまして、いずれも会場で一堂に会しての開催を見送ることとなりました。

資料の1ページ目を御覧ください。当初は2月14日月曜日にクアーズテック秦野カルチャーホールで、「秦野市の社会教育」をテーマとして、社会教育委員が公民館における事例と子ども会と婦人会の事例について発表を行う予定でした。

資料を1枚おめくりいただきまして、2ページ目を御覧ください。2ページ目の項番6、日程に記載がございます人権講話と社会教育委員の事例発表をメインとした内容で、今年度末までに報告書を作成して開催というような形をとりました。報告書につきましては3月末までに作成という予定で今動いておりますので、報告書が完成いたしましたら、教育委員の皆様にも送付する予定でございますので、よろしくお願いいたします。

続きまして、資料No.7を御覧ください。ミュージアム青空レクチャー「震生湖周辺を歩く」についてです。

昨年3月に国登録記念物に登録された震生湖は、令和5年9月に誕生100周年を迎えます。できるだけ多くの方に震生湖を知っていただくために、震生湖を構成する「湖面」「崩落地」「堰止地」に焦点を当てて現地の見学会を開催いたします。

日時は、2月13日日曜日、午前9時から、南が丘公民館を出発しまして、項番2の場所(2)に書いてございます主な見学場所を見学したいというコースを考えております。当日は、生涯学習課の文化財・市史担当の職員が説明、御案内をする予定です。申込みにつきましては、2月1日から受付開始となっております。

続きまして、資料No.8を御覧ください。こちらは、はだの歴史博物館の企画展「母ちゃん、頑張る！—西秦野町婦人学級と働く女性たち—」についてです。

こちらは、令和2年度に西公民館の新築に当たりまして公民館から移管されました資料等、写真サークルの講師でありました故小野利光様が撮影しました写真をもとに、60年ほど前の西秦野町の女性にスポットを当てて、3月8日の国際女性デーを含む期間を会期としまして企画展を開催します。

戦後、新しい社会の一員として役割を担うことになった女性が学ぶ姿、また労働に励む姿を写真で紹介いたします。会期は、2月1日から4月17日まで、会場は、はだの歴史博物館の第2企画展示室となります。

最後に、追加になるのですが、12月の教育委員会会議でお知らせいたしました講座の中止、開催形態の変更について少しお知らせしたいと思います。

新型コロナウイルスの影響に鑑みまして、明日1月22日土曜日、午前

	<p>10時から、はだの歴史博物館で開催予定のミュージアムさくら塾「神奈川の正月行事」については中止、また、1月29日土曜日、午後1時30分から開催予定でございました、はだの生涯学習講座「温泉地学研究所職員が教える温泉の基礎知識と楽しみ方」、こちら中止となります。また、明日1月22日、午後1時半から保健福祉センターで開催予定でありました市PTA連絡協議会とこども家庭支援課との共催による「家庭教育支援講演会」については、講師と調整のうえ、当日の会場での開催は取りやめまして、後日、動画で配信ということになりましたので、お知らせいたします。</p> <p>以上です。</p>
図書館長	<p>それでは、私から報告（10）令和3年度子ども読書活動推進事業講演会について御説明いたします。資料No.9を御覧ください。</p> <p>様々な情報メディアの発達により、子どもの読書環境が変化し、読書離れが指摘されている中、子どもの成長に欠かせない読書活動を推進していくため、子どもの読書の大切さと本の魅力を知る機会として毎年開催している子ども読書活動推進事業講演会ですが、今年度は、絵本作家である最勝寺朋子さんを講師としてお迎えし、「絵本は絵空事？～秦野での出逢いと『しらすどん』～」と題して講演をしていただきます。日時は、2月12日土曜日、午後1時半からで、図書館2階の視聴覚室で行います。</p> <p>講師の最勝寺朋子さんは小田原在住の絵本作家で、以前はタウンニュース秦野編集室の記者をされていました。講演のタイトルにもある『しらすどん』という絵本は、昨年7月に出版された最勝寺さんのデビュー作で、主人公の男の子を通じて、食べ物の大切さをテーマにした作品となっています。絵本作家になるまでの経緯や『しらすどん』制作のお話を交えながら、絵本の魅力とその力についてお話ししていただきたいと思います。</p> <p>なお、講師の先生に選んでいただいた図書の展示についても、講演会の開催に合わせて行う予定にしております。</p> <p>以上です。</p>
佐藤教育長	<p>それでは、教育長報告及び提案に対する御意見、御質問を一括してお伺いしたいと思います。いかがでしょうか。</p>
片山委員	<p>資料No.5ですけれども、回収は郵送のみとあるのですが、ネットか何かもあったような気がするのですが、違いましたか。どうしてこれになったのかなと思うのです。回収が郵送だけになったのかを教えてください。</p>
教育指導課長兼	<p>例年、学校を経由しまして、回答のある家庭からのみ教育委員</p>

教育研究所長	<p>会宛てに郵送していただいたと思います。</p> <p>以上です。</p>
佐藤教育長	<p>片山委員がおっしゃられるように、オンラインでということは所管課とも話をしたのですが、県との絡みがあるので、ちょっとまだ準備が整っていないということです。必要性は感じておりますので。</p>
飯田委員	<p>ほかはいかがでしょうか。</p> <p>資料No.4のコミュニティ・スクール連絡協議会のことについてちょっとお聞きしたいのですが、西中学校が一番最初に指定校として何年か、5年か6年ぐらい経つと思うのですが、今年、小学校7校、中学校4校、11校が既に協議会を設置。そしてまた新たに5校が研究推進校、そして協議会の設置も進めているということですが、合わせて16校がコミュニティ・スクールの設置校、実践校となるわけですが、残りの6校について、今後も研究校、そして実践校にしていくお考えがあるのか、もしくは、コミュニティ・スクールの実践校ではなくて、そのままにしておいて、何か違いを見ていたりするのか、ちょっとその辺のお考えがもし今の段階でわかっていれば、お聞かせいただきたいと思います。よろしくお願いします。</p>
教育指導課長兼 教育研究所長	<p>ただいまございました御質問に関しましては、今回の講演会の中でも、やはりコミュニティ・スクール、学校運営協議会の有効性というのは大きくお話をさせていただいている部分もありますので、本市としましても、最終的には今後全指定を進めていきたいと考えております。ですから、やはり学校ごと、また地区ごと、地域ごと、それぞれ違いがございますので、学校に大きな負担をかけることのないように、教育委員会と協働しながら進めてまいりたいと。そういった意味も含めて、こういった連絡協議会、講演会も随時開催している状況でございます。</p> <p>以上です。</p>
佐藤教育長	<p>よろしいですか。</p> <p>これに参加されている学校、研究校と実践校以外からも管理職に参加いただいているので、そういう気持ちはあるのだけれども、やはり勉強して、納得してやっていくというような、特に、今回南地区が新たに参加ということになると思います。ですから、まだ参加していないのが2地区あるのですが、それについても、管理職が非常に勉強して、進めていきたいという気持ちはあるようですので、納得していただいてという考え方です。</p> <p>ただ、基本的には、今、教育指導課長が言われたように、教育</p>

小泉委員

振興基本計画の中では、7年度ですか、全校設置という方向で今動いていますので、飯田委員の御意見も踏まえて進めていきたいと思います。

ほかにいかがでしょうか。

1 ページの2月7日の学校警察連絡協議会のところですけども、本日のタウンニュースでも、秦野警察署の方が1月13日に広畑小学校にて110番体験をされたという記事が出ておりました。子どもたちにとって、担任の先生がお話ししてくださるのとはまた違った意味で、やはり現場の方がお話ししてくださる、警察官の方がお話ししてくださるということは、防犯意識を育てるということでとても大切なことだなとその記事を見て思いました。

このような機会が年に何回ぐらい行われているか、または、先生方は各校何名ぐらい出席されているのかということをお聞きしたいと思います。

佐藤教育長

それは、学校警察連絡協議会に何名ということですか。それとも110番のほうではないですね。この協議会ですね。

小泉委員

そうです、この2月7日の件です。

教育指導課長兼
教育研究所長

学校警察連絡協議会ですが、いわゆる学警連の事務局というものがございまして、その事務局の学校と、あと警察が連携して会議の進行をしております。年間を通して細かい回数は後でお知らせしようと思いますが、基本的には、全体で情報共有、小学校、中学校、あと高等学校、養護学校、それ以外の関係機関ですと、児童相談所、警察、教育委員会、あとこども若者相談担当といった関係機関を交えた全体の会がある部分と、あと中学校部会と中学校だけに特化した部会もございまして。そういった中で情報を共有いたしまして、子どもたちの健全育成につなげているというような状況でございまして。

ちなみに、各校、児童指導、生徒指導担当1名ずつが出席という形になっております。

佐藤教育長

顔の見える関係で、当然、個人情報やりとりはしませんけれども、今言われたような110番体験ですとか交通安全教室を進めるうえでは、非常に大きな会ですし、教育指導課長は神奈川県警で出向の経験がございまして、本当にしっかりとした関係がございまして。

ほかにいかがでしょうか。

牛田委員

先ほど資料No.4のコミュニティ・スクールの関係について飯田委員からお尋ねがありました。私も残りの6校の現在の状況につ

教育指導課長兼
教育研究所長

佐藤教育長
牛田委員

いて、どんな様子なのか気になりましたが、先ほど指導課長のお話がありましたので、私も理解いたしました。

また、加えて75名の参加ということで、この75名の中に、いわゆる希望制ではあるけれども、来年度かな、5校の研究推進校として設置に向けて準備するということで、それ以外の学校関係の職員の方が参加されているのかなというところも気になったのですね。でも、先ほど教育長から、研究推進校としての準備をしている学区以外の方も参加されているということなので、私もそのあたり、課題もあるようだけれども、少しでもその壁や障害を取り除いてあげて、設置することによる、先ほどの教育指導課長の話ではないけれども、効果があるというのであれば、ぜひ計画どおりに進めていっていただきたいと思います。感想です。

それで、質問をよろしいでしょうか。資料No.5ですが、体罰で、私も現職のときにこれを経験しているのですが、ちょっと記憶に落としてしまったのでお尋ねしたいのですが、これは、言葉による暴力というのも質問項目の中に入っていたかどうかちょっと気になったのですが、どうなのでしょう。

具体的に言葉ということに調査の中では言及はしていないと思います。ですが、例年の報告の様子を見ますと、実際に言葉の暴力といいますか、教職員の発言によって子どもが傷ついたという部分についての御意見は複数いただいていますので、そこに関してはきちっと学校長と連携しながら対応を進めてきております。

よろしいですか。

わかりました。ありがとうございます。

というのは、教師もやはり人の子ですので、激昂して、時々子どもを皮肉ったり罵倒するとかいう場面もあります。私自身も、自分が中学生のときに、叱られ方、注意の仕方でもとても不愉快な思いをしたことがあります。ぜひこの辺のところも十分、各先生方も対応については慎重に考えて子どもたちに向き合っているとは思いますが、ちょっとそのあたりが気になりました。

それから、一方で、体罰調査が毎年行われることによって、いわゆる先生方が指導に対して萎縮してしまって、過剰な警戒心が募ってしまって、いわゆる非常にスマートな指導しかできないというところも危惧しているのですよ。スマートな指導というのは、聞こえは良いのですが、褒め方とか叱り方、注意の仕方というのは、先生方のスタイルがあると思うのですが、自分に合った、子どもたちに響く叱り方、褒め方、注意の仕方というのを臆することなく自分自身の中で、現場で実際に子どもたちに向き合ってい

佐藤教育長

る中で技術を磨いていってほしいということを感じています。

教育長も、よく教師の人間力でしょうかというお話も耳にしているところなのだけでも、やはり叱るところはしっかりと厳しく叱れる、褒めるところは見落とすことなくタイミングを見てしっかりと子どもたちを褒めてあげる。このような、教師としての姿勢というものを自分の中でしっかりと築いていってほしいと思います。

繰り返しになりますが、体罰調査が毎年あることによって、先生方の指導が萎縮してしまうのではないかという心配というところの感想だけ述べさせていただきました。

以上です。

御指摘のとおり、信頼関係あって学校というのは成り立っていますので、その信頼関係を構築できるように、教師の側もしっかりと勉強していかなければいけないと思っています。

それと、コミュニティ・スクールに関しまして、先ほど75名という、これは、実は南小学校を会場にしていますので、南小学校の先生方、一般の教職員の方も来ていただいています。これは理由がございまして、先ほど、管理職はそう思っている、一般の先生方の理解を得る、これも非常に重要なので、こういう形で、悉皆ではなく学校を会場にしてやっているということなので、先ほど飯田委員の御質問にもありましたが、やはり管理職がそう思っている、ほかの先生方の共通理解が大事なので、こういう取組をやっているということでございます。

ほかはいかがでしょうか。

片山委員

これは希望ですけれども、資料No.8に関してですが、私は、ホームセンターに行った帰りに時々歴史博物館に寄るのですが、1つの企画展の期間が2カ月半ですと、行く回数が減ってしまうという感じがするので、もうちょっと短い期間でどんどん変えていったら、大変だと思えるのですけれども、そういうことはやっていただけるものなのではないでしょうか。

佐藤教育長

ちょっと期間が長過ぎると。もうちょっと焦点を絞ってほかのことなのではないかと。

片山委員

これに対して、もうちょっと1週間、2週間で変えていくとかというのも手だと思うのですけれども。何かそういうことを考えていただくと、行ったときにまた新しい発見があるかなと。勝手なことを言っているのですけれども。

佐藤教育長

どうでしょうか。

生涯学習課長

会期につきましても、年間でこういう企画展をするという計画

佐藤教育長

がございますが、今、片山委員からいただきました御意見につきましては、博物館のほうとも、御意見として承りまして、今後の企画展の開催について検討していきたいと思います。

秦野は大正時代から幼児教育というので、女性の権利意識の向上ですとか、そういった宝となるような部分がありますので、企画としては非常にいい企画だと思いますので、ぜひたくさんの人に見ていただきたいと思います。

ほかにいかがでしょうか。

小泉委員

今の件に関係するのですけれども、この企画展にも片山委員は時々足を運ばれるということですが、私は残念ながらそんなに回数行ったことなく。ただ、今回、「母ちゃん、頑張る」という見出しがあったので、何か気持ちが引かれて、行ってみようかなと思ってはいるのです。もしこれが「母ちゃん、頑張る」ではなくて、その後の「西秦野町婦人学級と働く女性たち」だけだったら多分行かないと思うのですけれども。その辺で、表題のつけ方あたりも工夫されているなと思いました。

やはりこういう場所は、皆さんたくさんの方に行っていただけるといいのかなと。特に秦野のことについて知ることが、やはり秦野を愛する気持ちにもつながってくるかなと思いますので、私もぜひ今回は行かせていただきたいと思います。

佐藤教育長

非常にいいキャッチコピーだったということで、ぜひ頑張ってください。

ほかはいかがですか。よろしいですか。

それでは次に、5のその他に入りたいと思います。

(1) 令和4年度教育委員会会議等日程(案)についての説明をお願いします。

教育総務課長

その他(1)の資料を御覧ください。令和4年度の教育委員会会議の日程の案になります。

教育委員会会議につきましては、原則といたしまして第3金曜日に会議を開催しておりますが、来年度につきましては、5月、11月、2月につきましては、教育長の会議の関係ですとか議会の日程の関係で第3金曜日から外れているというようなことになっております。

裏面につきましては、参考としまして議会の日程の予定ですとか来年度予定されている教育長及び教育委員の方々の出張、研修などの予定を載せてございますので、今後のスケジュール調整などの参考にしていただければと思います。

以上でございます。

佐藤教育長

御意見、御質問等ございますでしょうか。

—特になし—

佐藤教育長

こちらはよろしいですか。

それでは、その他の案件ございますか。

—特になし—

佐藤教育長

よろしいですか。

それでは、会議を非公開とする前に、次回の日程調整をお願いしたいと思います。

事務局

次回の教育委員会会議を2月16日水曜日、午後1時30分から、こちらの会場で予定しておりますので、よろしくお願いいたします。

事務局からは以上です。

佐藤教育長

それでは、ただいまから会議を非公開としますので、関係者以外の方の退席をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

—関係者以外退室—